

寿命

更新日：2007.3.30

<代表値>

男性：77.72年

女性：84.60年

<代表値のもととなる資料>

厚生労働省が毎年発表する簡易生命表には、年齢ごとの生存数、死亡数、死亡率、平均余命が示されている。我が国では、生命表は1902（明治35）年（1891（明治24）年～1898（明治31）年の死亡状況に基づく）に初めて作成された。平均寿命（生命表では、0歳の平均余命にあたる）は国民全体の死亡状況を表したものであり、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。また、簡易生命表よりも精密な方法で5年に一度作成されるものに「完全生命表」がある。「第19回完全生命表」は、2000（平成12）年国勢調査による確定人口（日本人人口）、人口動態統計調査確定数（平成12年死亡数、平成12年乳児死亡数、平成11年および12年出生数）を基礎資料として作成されている。

代表値としては、2000（平成12）年の完全生命表に示されている平均寿命を用いた。1960（昭和35）年、1980（昭和55）年、2000（平成12）年の完全生命表から、20歳ごとの平均余命の値を表としてまとめたものを下に示す。

完全生命表における平均余命（年）の推移

	昭和35年（第11回生命表）		昭和55年（第15回生命表）		平成12年（第19回生命表）	
	男	女	男	女	男	女
0歳	65.32	70.19	73.35	78.76	77.72	84.60
20歳	49.08	53.39	54.56	59.66	58.33	65.08
40歳	31.02	34.90	35.32	40.23	39.13	45.52
60歳	14.84	17.83	18.31	21.89	21.44	26.85
80歳	4.91	5.88	6.08	7.33	7.96	10.60
100歳	1.18	1.29	1.80	1.69	2.18	2.72

出典：厚生労働省大臣官房統計情報部編（2002）

<追加的情報>

厚生労働省の2000（平成12）年都道府県別生命表には、都道府県別の平均寿命、死因別死亡確率などが掲載されている。この平成12年度都道府県別生命表は、人口動態統計の日本人死亡数および出生数、平成12年国勢調査の確定日本人人口を基礎資料として作成されている。

都道府県別平均寿命（年）

順位	男		女	
	都道府県	平均寿命	都道府県	平均寿命
1	長野県	78.90	沖縄県	86.01
2	福井県	78.55	福井県	85.39
3	奈良県	78.36	長野県	85.31
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
45	高知県	76.85	栃木県	84.04
46	秋田県	76.81	大阪府	84.01
47	青森県	75.67	青森県	83.69

出典：厚生労働省大臣官房統計情報部編（2003）

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：高

2000（平成 12）年国勢調査による確定人口（日本人人口）、人口動態統計調査確定数（平成 12 年死亡数、平成 12 年乳児死亡数、平成 11 年および 12 年出生数）を基礎資料として作成されている。

◇ 代表性に関する情報

代表値のもととなる資料

国勢調査と人口動態統計に基づいている。

追加的情報

国勢調査と人口動態統計に基づいている。

◇ 入手できた資料の数

実際に入手できたものは上記の 2 資料であったが、職業別平均寿命や市区町村別平均寿命などに関する研究も行われている（山口ら（1995））ようである。

<引用文献>

厚生労働省大臣官房統計情報部編（2002）、第 19 回生命表、財団法人 厚生統計協会。

厚生労働省大臣官房統計情報部編（2003）、平成 12 年都道府県別生命表。財団法人 厚生統計協会、
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk00/>

山口喜一、南條善治、重松峻夫、小林和正編著（1995）、生命表研究、古今書院。

<更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

1970 年から 1993 年までの男女・人種別平均寿命と 1995 年から 2010 年までの平均寿命の予測値が報告されている。もとになった資料は、U.S. Department of Commerce が毎年出版している Statistical Abstract of the United States であり、ハンドブックには 1970～1993 年までの男女・人種別の寿命データが掲載されている。これにもとづき平均寿命の推奨値を 75 年（男性 72.1 年、女性 78.9 年）としている。